

- 1 日時 平成28年7月25日（月） 13:00～16:00
- 2 会場 桜井市立図書館（桜井市河西31）
- 3 参加者 70人（教職員、地域コーディネーター、行政職員等）
- 4 内容 13:00～ 13:05 開会挨拶
 13:05～ 13:30 セミナー
 「地域と共にある学校づくり」について
 人権・地域教育課 中島 憲作
 13:30～ 14:40 講演
 「地域と共にある学校づくりのこれまでとこれから」
 天理大学人間学部 教授 岡田 龍樹
 14:50～ 15:50 ワークショップ熟議
 15:50～ 16:00 閉会

5 講演概要

1 学校・地域連携事業～文部科学省の動向～

(1)中央教育審議会 3つの答申（平成27年12月21日）より
 ・地方創生の実現に向けて、学校・地域がどのように連携・協働していくかがこれからの課題

- ・“チーム学校”…学校教育・家庭教育・社会教育が一体となつて子どもたちの成長を支える仕組みづくりを
- ・今後の地域における学校との協働体制の在り方について
 →「支援」から「協働」へ

・コミュニティ・スクールの拡大・充実に向けて

(2)文部科学大臣決定（平成28年1月25日）より

・「次世代の学校・地域」創生プラン（＝馳プラン）とは？

2 奈良県学校・地域パートナーシップ事業の展開

(1)奈良県の取組の経過

- ・「奈良県地域教育力再生事業（平成19年～）」→
 「学校支援地域本部事業（平成20年～）」→
 「学校・地域連携事業（平成23年～）」→
 「学校・地域パートナーシップ事業（平成25年～）」

(2)奈良県の学校コミュニティ協議会（仮称）とは？

・「連携・協力」から「参画・協働」へ

(3)「学校・地域パートナーシップ事業に関する調査」から

・事業の実施によって、「子どもたちの通学時の交通安全、防犯体制の充実」への効果感は大
 幅に増加しているものの、「教職員が子どもと向き合う時間の増加」や「子どもたちの問題行
 動や不登校の減少」への効果感については増加率が低く、今後の課題となる。

3 学校・家庭・地域の連携・協働の具体例

(1)サービス・ラーニングの事例～地域清掃活動（奈良市立富雄中学校）～

→生徒自身が活動の意義を実感。「地域による学校を支援」から「生徒による地域貢献」への
 転換、アクティブ・ラーニングにもつなげる取組

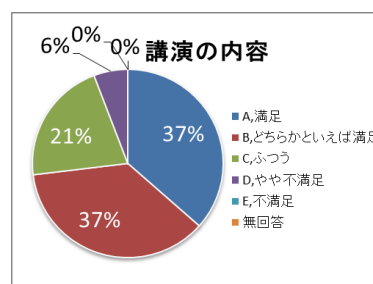
(2)主権者学習～ベルマーク運動への生徒参加（奈良市立富雄中学校）～

→ベルマーク利用目的の「公共性」について生徒が考える機会を創出

(3)生徒指導の課題解決～中学校区連携型のコミュニティ・スクールの取組

（岡山市立御南中学校）～

→CSの導入により、学校の課題を地域と共有、地域協働学校連絡会のもと部会を設定。ス
 クールサポーターによる巡視活動等の様々な取組により学校の荒れが減少



6 感想

- ・具体的な事例を基に事業の理念を説明いただいたので、納得できることが多かったです。
- ・今後、学校・家庭・地域の連携・協働を進めていく上で大切にすべき視点を示していただいたので、ありがたかったです。